

集え！

オイスカ会員の皆様方

「知」のワールドへ

樋泉克夫 先生 講演会

(知の巨人：愛知県立大学名誉教授・オイスカ理事)



【演題】「台湾有事」が問い掛けるもの

～改めて日本人として考える～



と



「台湾有事」には、軍事力の優劣だけでは解決できない多くの複雑な問題が絡み合っています。だからこそ、一歩離れて全体を見渡すことが必要ではないでしょうか。

「宝の島」と呼ばれ、九州ほどの広さを持つサツマイモの形をした台湾の歩みを、日本人としての立場から、皆さんと共に考えたいと思います。

【日時】令和7年3月11日（火）午後6時～午後8時

【会場】オイスカ中部日本研修センター ホール

〒470-0328 豊田市勤八町勤八27-56

電話番号：0565-42-1101 FAX：0565-42-1103

Eメール：chubutc@oisca.org

参加申込表

ご芳名	
-----	--

ご講演概要

「台湾有事」が問い掛けるもの

——改めて日本人として考える——

樋泉克夫 先生（愛知県立大学名誉教授・オイスカ理事）

私は昭和22（1947）年の生まれですが、もの心がついて以来、日本社会を停滞した気分が包み込み、日本人の振る舞いが現在ほどに意気消沈して見えるような記憶がありません。

日本の歴史始まって以来の大困難が待ち構えていた昭和20（1945）年8月15日のその日であっても、おそらく日本社会は打ちひしがれてはいなかった。多くの日本人の心は明日に向かって力強く高鳴っていたはず。「さあ、再出発だ！」と。

国際社会における日本の存在感を支えていた世界第2位の経済大国の地位は10年ほど前に中国に超えられ、最近になってドイツにも追い抜かれ、ついに第4位に後退してしまいました。だが、ここで手を拱いたままで立ち止まっているわけにはいきません。いまこそ求められているのは、第2の「さあ、再出発だ！」ではないでしょうか。

では、どうすべきか。

やはり日本を取り巻く内外環境を新しい視点に立って見直し、これまで見過ごしてきた点に目を向け、日本と日本人にとっては“不都合な現実”を直視する。そうすることで、必ずや新しい道が切り開けるものと確信するわけです。

いま急ぐべきは現実にそぐわない昨日までの“常識”に再検討を加え、捨てるべきは捨て、予想される将来像から現在を見つめることではないでしょうか。そこから新しい考えが生まれてくるはずです。

そこで、先ずは我が国にとって最も近い周辺の国々の現状と我が国との関係を見直すことを提案します。

我が国の将来を確実に左右する重大問題として盛んに論じられるようになった「台湾有事」ですが、じつは最近になって急に持ち上がったわけではありません。

「台湾有事」の本当の姿を捉えるためには、日本、中国、そしてヨーロッパ列強による数百年にわたる激しい勢力争いの舞台であった台湾の歴史を振り返る必要があります。

「台湾有事」には、軍事力の優劣だけでは解決できない多くの複雑な問題が絡み合っています。だからこそ、一步離れて全体を見渡すことが必要ではないでしょうか。

「宝の島」と呼ばれ、九州ほどの広さを持つサツマイモの形をした台湾の歩みを、日本人としての立場から、皆さんと共に考えたいと思います。